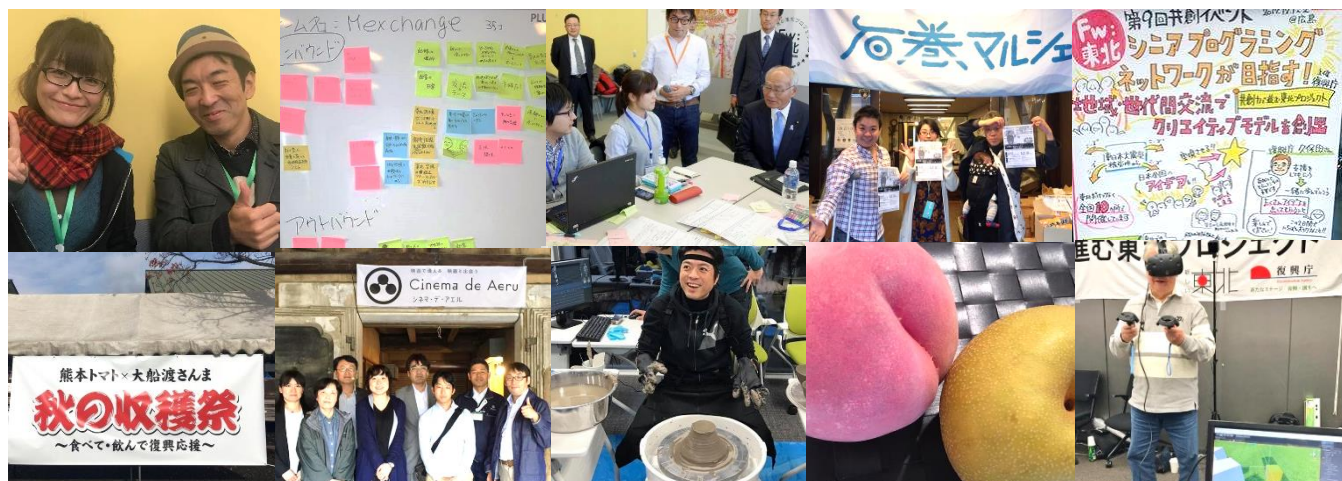




「共創力で進む東北プロジェクト」

から生まれた

10 プロジェクト

～東北への想いをつなぐ共創のバトン～



目次

1. プロジェクト概要	4
2. 10プロジェクト紹介	
1. ヒガシ・デ・アエル	6
～400年の復興まちづくりと歴史的商家のリノベーションによる文化・観光拠点の創造～	
2. シェアリングエコノミーを活用した 「共助」によるまちづくり・産業づくり	6
3. リアルタイム流通で農産物を繋ぐ ICT地域商社	7
4. 地域間交流のコラボレーションによる食や まちのブランド向上	7
5. 被災地外でのファン醸成による ダイレクトコミュニティマーケティング	8
6. ダイバーシティを体現する官民一体の まちづくりスキームの構築	8
7. 福島県でのオープンデータ プラットフォームの構築	9
8. 東北におけるインアウトバウンド2.0の創出	9
9. シニアプログラマー育成における オーダーメイド型教育モデルの場づくり	10
10. 伝統工芸の継承課題を3D・VR・AIで 解決するオープンプログラム	10
3. 週次イベント紹介	11

「共創力で進む東北プロジェクト」 プロジェクト概要

※「共創力で進む東北プロジェクト」は、「平成29年度 共創イベントを通じた情報発信ソリューション構築事業」の通称です。

共創力で進む東北プロジェクトとは…

「新しい東北」の創造に向けた様々な取組の成果の普及・展開や取組の自走化に向けて、共創イベント（アイデアソン等）の開催を通じ、情報発信力の強化や新たなパートナーづくり等のソリューション構築を図る取組。

1. NPO、企業、自治体等から情報発信力の強化等を通じて課題解決したいテーマを募集
2. 共創イベント（1泊2日）を全国で10回開催
3. 共創イベントで出されたソリューションの具現化までサポート



NPO、企業、自治体等の情報発信力の強化や
新たなパートナーづくり等を促進

ポイント

- 共創イベントにより、様々な立場の者からのアイデアや解決手法を活用して、「オープン・イノベーション」を実践。
- 共創イベントに加え、広く官民から新規関心層を巻き込む場として、都内で週次の参加型イベントを連続的に実施（25回開催）。
- SNS等を活用し、事業の運営、成果等を内外に情報発信。



※アイデアソンとは、「様々な立場の者が主体的に集まり、その相互作用を通じて、課題解決に向けたアイデア創出や新たな商品・サービス・アイデアの創造を目指す共創の場」をいう。

写真：共創イベント（第1回）の様（岩手県宮古市）
（平成29年7月15日、16日開催）



「共創力で進む東北プロジェクト」

10プロジェクト紹介

課題解決したいテーマの公募を通じ採択された10プロジェクトについて、それぞれのテーマや共創イベント後の状況などを紹介。

「共創力で進む東北プロジェクト」 プロジェクト紹介

「ヒガシ・デ・アエル」

～400年の復興まちづくりと歴史的商家のリノベーションによる文化・観光拠点の創造～
＜岩手県宮古市＞



日時：平成29年7月15日（土）・16日（日）
場所：岩手県宮古市 「東屋（あずまや）」
参加者：30名
※地元高校生・短大生も参加。
このほか、リノベーションの専門家等4名が
メンターとして参加。



団体：シネマ・デ・アエル実行委員会
プロジェクトリーダー：有坂 民夫氏

第1回テーマ

岩手県宮古市内の歴史的商家のリノベーションを通じて、
昔の商家が担っていた地域の商社・文化創造・福祉機能を現代に復活させ、
文化・交流拠点を創出することを目指す。

共創イベント後の状況

- 宮古市内のホテルや飲食店関係者のほか、岩手県や宮古市なども加わった官民連携の枠組み作りと、その枠組みに参加する事業者等のビジネスマッチングを目指す「アエル会議」の開催を中心に、東屋の利活用を中心とした企画・運営を実施している。
- 様々な人が訪れ新しいことに出会える複合型コンテンツ提供の場というアイデアを活用し、地域住民の結婚式を開催し様々な人に参加していただくブライダルイベントをH29年11月に開催した。
- 宮古の郷土料理を提供し母屋を活かしたおしゃれなカフェテリアを運営するというアイデアを活用し、地域の交流の場として東屋を利用する「宮古室蘭連携交流プロジェクト」をH30年2月に開催した。

シェアリングエコノミーを活用した「共助」によるまちづくり・産業づくり ＜宮城県気仙沼市＞



日時：平成29年8月19日（土）・20日（日）
場所：宮城県気仙沼市
海の市2階「スクエアシップ」
参加者：42名
※岩手県・宮城県の高校生なども参加。
また、学生キャリアコンサルタントや
地元金融機関関係者等がメンター・審査員として参加。



団体：宮城県気仙沼市
プロジェクトリーダー：高橋 えり氏（NPO法人 ピースジャム）ほか

第2回テーマ

気仙沼市では、若者が高校卒業後に町を離れる傾向が高い。
若者に気仙沼市に留まってもらう・戻ってきてもらうためには、
職業の多様な選択肢、安定した収入の確保や、
安心して子育てができる環境などが必要。
そのため、地域資源を活用した魅力あるシェアリングエコノミーを創造し、
ビジネスチャンスやスキル向上の場を提供することで、
若い世代が定住する街を目指す。

共創イベント後の状況

- アイデアソンで出たアイデアである子供服リユースの会員制サービス「みんなん」を運営するため、地元の金融機関によるコンサル支援やPTA組織による周知・プロモーションなど、地域関係者が連携したプロジェクト体制をNPO法人ピースジャム内に構築した。
- 「みんなん」では、H29年11月に気仙沼、12月に東京で古着を収集するイベントを実施した。H30年3月にはホームページを開設し事業を開始する予定。
- この他、廃校活用のアイデアを活用し、ライブハウス事業やアンテナショップ事業を計画しており、シェアリングシティとしてステップアップを目指す。

「共創力で進む東北プロジェクト」 プロジェクト紹介

リアルタイム流通で農産物を繋ぐICT地域商社 ＜福島県郡山市＞



日時：平成29年9月9日（土）・10日（日）
場所：宮城県仙台市
INTILAQ東北イノベーションセンター
参加者：35名
※宮城県の高校生なども参加。
地域ブランドコンサルタント、一次産業・地域に
関わる編集者、起業家支援専門家などが
審査員メンターとして参加。

第3回テーマ

東日本大震災以降、福島県の主要産業である農業では、風評被害と相まって特産物の生産量・価格が震災前の水準に回復しておらず、また地産地消の拡大が課題となっている。
この課題を解決するために、農家、飲食業界、消費者などが個々に持つ有用な情報をリアルタイムにつなぎ、即時に流通サービスにのせる「地域ICT商社」の仕組みづくりをアイデアソンによって創出する。

共創イベント後の状況

- ・農家・家庭・料理人を相互につなぎ、ファンクラブを創り地元農家ファンを増やすアイデアを活用し、福島県内の飲食店が農家から直接納品するための流通体制を整備し、農産物を購入するためのスマートフォンアプリを開発する。H30年3月末にリリースする予定。
- ・品質の良いB級野菜の収穫情報を見える化するアイデアを活用し、野菜セットを安価に飲食店へ提供する「マジックボックス」をH30年1月に試験導入し、3月にサービス開始する予定。
- ・地元農家ファンを増やす取組として、福島の食に関するファンクラブ運営サイト内での紹介や、農家と飲食店の交流イベントを実施していく。



団体：株式会社 Concept-Village
プロジェクトリーダー：馬場 大治氏

地域間交流のコラボレーションによる食やまちのブランド向上 ＜岩手県大船渡市＞



日時：平成29年9月30日（土）・10月1日（日）
場所：熊本県熊本市
「熊本学園大学」
参加者：40名
※熊本の大学生や宮城県の高校生なども参加。
九州の地域戦略担当、農産物販売を通じて地方創生を行う
事業家等がメンター・審査員として参加。

第4回テーマ

大船渡市では、東日本大震災により基幹産業である水産業が深刻な被害を受けた。水揚げ量や売上は戻りつつあるが、震災で失った販路は回復していない。
平成28年に大震災を経験し、復興支援によって大船渡市と絆が生まれた熊本。水産資源が豊富な大船渡市と、大船渡市にはない食や観光などの地域資源を持つ熊本がコラボレーションすることで、今までにない地域連携の仕組みづくりを共創により創出する。

共創イベント後の状況

- ・「熊本の赤の食材（赤酒、トマト）×大船渡の水産資源（さんま）」のコラボレーション料理を震災復興グルメとして被災地支援金を集めるアイデアを活用し、熊本県内で飲食店を営む企業と連携することで、コラボレーション商品を企画・開発し提供するプロジェクトを開始した。
- ・H29年11月の熊本県南阿蘇村復興応援イベントにて、大船渡産さんまと熊本産トマトを組み合わせた新商品の試食会を行った。
この商品にバジルソースを加えた新商品を熊本県内の飲食店で提供する予定。
- ・新メニュー開発コンテストのアイデアを活用し、新商品の福岡県内や東京都内でのテスト販売を企画中である。



団体：さかなグルメのまち大船渡実行委員会
プロジェクトリーダー：及川 廣章氏

「共創力で進む東北プロジェクト」 プロジェクト紹介

被災地外でのファン醸成によるダイレクトコミュニティマーケティング ＜宮城県石巻市＞



第5回テーマ

東日本大震災からの復興活動の中で生まれた「石巻うまいもの株式会社」と、復興支援をきっかけに石巻産品の販売を始めた東京・大森の「石巻マルシェ」。両者の連携によって生まれた食関連の共創の輪を東京の一般消費者へも広げ、東京のローカルをパートナーとした新しい商品開発マーケティングの仕組みとプロセスを考える。

共創イベント後の状況

- ・ 富山の置き薬に着想を得て、新商品を東京・大森に置きテストマーケティングすることで石巻の商品開発へフィードバックするというアイデアを活用し、石巻と大森が連携した商品開発の体制づくりを行い、プロジェクトを開始した。H30年2月には「石巻マルシェ」で高級水産加工物を素材としたお茶漬けの新商品の試食会を行い、そのアンケート結果を商品開発へフィードバックする取組を行った。
- ・ 地域と連携したモニター制度やコミュニティ形成のアイデアを活用し、SNSを使った情報発信やコミュニティ形成を行い、商品開発に活用していく。

日時：平成29年10月21日（土）・22日（日）
場所：東京都千代田区
「TIP*S（独立行政法人 中小企業基盤整備機構）」
参加者：22名
※首都圏IT企業勤務者らが参加。
地域ブランディングや食品メニュー開発の
専門家などが審査員メンターを務めた。



団体：石巻うまいもの株式会社
プロジェクトリーダー：平塚 隆一郎氏

ダイバーシティを体現する官民一体のまちづくりスキームの構築 ＜岩手県陸前高田市＞



第6回テーマ

陸前高田市が官民共同で目指す、市民が個々の多様性を当たり前のものとして受け入れ、尊重することのできるまちづくりの実現に向け、障がい者スポーツを通じて考え、官民や産官学の協働体制を構築するとともに、市民の主体的参加意識を醸成。

共創イベント後の状況

- ・ 障がいがある人とそうでない人とがペアで取り組み、誰でも参加できるスポーツイベントを開催するというアイデアを活用し、市民意識の向上を目的とした「高田思民協議会」を設置した。選手との交流会やセミナーなどを開催し、広く市民からも協力を得る活動を開始した。
- ・ 地域特性を活かしたダイバーシティスポーツを考案しダイバーシティスポーツの聖地となるというアイデアを活用し、その実現に向けて認知度を高めるための映像制作を行っていく。
- ・ H30年3月には埼玉県で行われるアンブティサッカーの運営にも関わり、障がい者スポーツにおけるイベント運営ノウハウを習得していく。

日時：平成29年10月28日（土）・29日（日）
場所：兵庫県神戸市
「神戸市役所4号館危機管理センター」
参加者：24名
※VR用自作PCを持ち込んだ地元神戸の
高校生2名や、神戸のIT企業、行政関係者等も
参加。



団体：一般社団法人 マルゴト陸前高田
プロジェクトリーダー：大久保 光男氏

「共創力で進む東北プロジェクト」 プロジェクト紹介

福島県でのオープンデータプラットフォームの構築 ＜福島県広域＞



日時：平成29年11月18日（土）・19日（日）
場所：福島県いわき市
「いわき市健康・福祉プラザゆったり館」
参加者：39名
※県内の高校生や大学生、大学教員、
地元自治体の職員、IT企業関係者などが参加。



団体：福島オープンイノベーション推進コンソーシアム
プロジェクトリーダー：坂上 英和氏

第7回テーマ

地震・津波・原発事故など、復興に向けた課題が複雑化している
福島県沿岸部では、震災後、最新の情報を網羅的に把握するためのデータの
蓄積が難しくなっている。
そこで、ITを活用し、民間企業やNPO、自治体等が持っている
最新の情報を集積し、オープンに利用できるデータ活用基盤の構築を
推進することで、まちのにぎわいを創出していく。

共創イベント後の状況

- ・“マニアレベル”に応じたデータを提供するなど、ゲーム性を取り入れたデータ活用基盤構築のアイデアを活用し、県内の大学や著名な社会学者と連携する体制を構築し、福島県内にある多様なデータの収集を進める。
- ・釣りスポットやとれた水産物などの地域資源をマップ上でシェアすることで、インバウンドなど交流人口を増やすというアイデアについて、H30年3月末までに地元のIT企業やNPO法人とアイデアソンを行い、具現化していく。
- ・今回のアイデアソンの体験を通じて、新たなパートナーづくり等を推進することの重要性を実感したことを受け、今後も継続してアイデアソンを実施していく。

東北におけるインアウトバウンド2.0の創出 ＜東北広域＞



日時：平成29年11月24日（金）・25日（土）
場所：大阪府大阪市
「ヤフー株式会社大阪グランフロントオフィス」
参加者：34名
※被災地や神戸の高校生、大学生、企業のエンジニア
などが参加。



団体：一般社団法人東北インアウトバウンド連合
プロジェクトリーダー：西谷 雷佐氏

第8回テーマ

東北の復興においても、観光需要は一層の拡大が期待されている。
様々な選択肢の中で積極的に選択してもらう観光地となるためには、
インバウンド・アウトバウンド双方向の交流の仕組みが必要であるという
仮説のもと、2WAYのプラットフォームを関西地域との共創で構築する。

共創イベント後の状況

- ・今回のアイデアソンの体験を通じて、インバウンドとアウトバウンドなど新たなパートナーづくりを生む仕組みの必要性を実感したことを受け、各地で共創型交流を推進するためのプロジェクトを開始した。
- ・人が集まる複数の場所を繋ぎ双方向に井戸端会議ができる「交流サロン」を作るというアイデアを活用し、台南に居住するツアーガイドと連携することで、台南の人との井戸端会議の場の提供に関する調整を始めた。
- ・アイデアソンで生まれた「○○になっちゃおうプロジェクト」を活用し、東北の人たちと台南の人たちによる台南まち歩き（ナビケーション）プランを共同企画するアイデアソンをH30年3月に実施する予定。

「共創力で進む東北プロジェクト」 プロジェクト紹介

シニアプログラマー育成におけるオーダーメイド型教育モデルの場づくり ＜宮城県塩竈市＞



日時：平成29年12月1日（金）・2日（土）
場所：広島県広島市
「広島県医師会館」
「イノベーション・ハブ・ひろしま・Camps」
参加者：35名
※80歳代のシニアプログラマーを含む
シニア世代や、被災地や広島の高校生、大学生、
企業のエンジニアなどが参加



団体：シニアプログラミングネットワーク
プロジェクトリーダー：小泉 勝志郎氏

第9回テーマ

震災以降、東北では急激に少子高齢化が進んでいる。
超高齢化社会をチャンスと捉え、シニア世代のクリエイティビティ（創造性）
を発揮する手段として、プログラミングをするための場を提供することで、
シニア世代の能力発現を促す事業モデルを創出する。

共創イベント後の状況

- ・シニア世代の多くの自由時間や社会経験を活かし、世代間交流するなかで自分のやりたい事を見つけるというアイデアを活用し、コミュニティ機能やオンライン教育を実装したポータルサイトを公開することで、シニアのプログラミングを応援するサポーターとのマッチングを推進する。
- ・人生100年時代に向け健康で生きがいを持つために集まる場を提供するというアイデアを活用し、シニアプログラマーのトークイベントなどを開催し関心層の交流を深めていく。
- ・今回のアイデアソンの体験を通じて、東北や東京だけでなく他地域でも需要があると実感したことを受け、ポータルサイトのコミュニティ機能の活用や他地域でのイベント開催など、地域を超えた活動も目指していく。

伝統工芸の継承課題を3D・VR・AIで解決するオーブンプログラム ＜福島県浪江町＞



日時：平成29年12月16日（土）・17日（日）
場所：福島県会津若松市
「会津大学 先端ICTラボ LICTiA」
参加者：34名
※被災地や神戸の高校生、大堀相馬焼の職人、
大学教員、元ロボコン優勝者等が参加。



団体：大堀相馬焼窯元 松永窯
プロジェクトリーダー：松永 武士氏

第10回テーマ

「大堀相馬焼」は300年以上親しまれてきた国指定の伝統工芸品であるが、
窯元や職人の減少が加速しており、一刻も早い後継者育成が望まれている。
そこで、職人達が受け継いできた熟練技能を3D・VR・AIなどの
IT技術でカバーし、技能を後世に残すとともに、
次代の担い手となる若者層を引きつける取組を行う。
また、成果プログラムは、他の伝統工芸品の関係者にも広く公開する。

共創イベント後の状況

- ・今回のハッカソンにおいて、釉薬（ゆうやく）調合など職人の負担軽減のため、AIスピーカーと既存の技術を組み合わせたシステムが構築された。
このシステムを発展させて、工芸品が成形された後の検品工程で、工芸品の
サイズを自動測定し短時間で正確な検品を実現する仕組みを開発中である。
- ・「部活動」のように子供から大人までが陶芸の「楽しさ」や「厳しさ」を共有することで大堀相馬焼への親しみを深めていくというアイデアを活用し、
福島県内の中学校教育にバーチャルろくろを試験導入することで、若者が陶
芸を知るきっかけづくりを始めた。



「共創力で進む東北プロジェクト」

週次イベント紹介

東北の地域課題解決を考える場として、平日の19:00から2時間程度を基本に、ミニアイデアソン等の共創イベントを都内で開催した。



「共創力で進む東北プロジェクト」

週次イベント紹介

No.	日付	テーマ	主なテーマ提供団体
No.1	2017/5/23(火)	共創力で進む東北プロジェクト プレキックオフ&ミートアップ	—
2	2017/6/20(火)	「ヒガシ・デ・アエル」～400年の復興まちづくりと歴史的商家のリノベーションによる文化・観光拠点の創造～	シネマ・デ・アエル 実行委員会
No.3	2017/6/30(金)	東北IT県人会	東北IT県人会
4	2017/7/21(金)	シェアリングエコノミーを活用した「共助」によるまちづくり・産業づくり	宮城県気仙沼市
No.5	2017/7/27(木)	「新しい東北」× 仕事旅行 with 宮城県山元町	宮城県山元町
6	2017/8/3 (木)	リアルタイム流通で農産物を繋ぐICT地域商社	株式会社 Concept-Village
No.7	2017/8/24(木)	復興ダイアログ「企業とNPOと市民で未来を創る対話会」	—
No.8	2017/8/29(火)	「鯉に恋する郡山」プロジェクト2017	福島県郡山市
9	2017/9/7 (木)	地域間交流のコラボレーションによる食やまちのブランド向上	さかなグルメのまち大船渡 実行委員会
No.10	2017/9/13(水)	LTT (ライトニング東北トーク)	—
11	2017/9/21(木)	第二回復興ダイアログ～企業・行政・NPO・市民で未来を創る対話	—
12	2017/9/28(木)	被災地外でのファン醸成による ダイレクトコミュニティマーケティング	石巻うまいもの株式会社
No.13	2017/10/6 (金)	アロハシャツアイデアソン	サムライアロハ プロジェクト
14	2017/10/12(木)	ダイバーシティを体現する官民一体の まちづくりスキームの構築	一般社団法人 マルゴト陸前高田
15	2017/10/19(木)	福島県でのオープンデータプラットフォームの構築	福島オープンイノベーション 推進コンソーシアム
16	2017/10/26(木)	シニアプログラマー育成におけるオーダーメイド型教育モデル の場づくり	シニアプログラミング ネットワーク
No.17	2017/10/27(金)	「新しい東北」地域づくりハンズオン国見町	福島県国見町
No.18	2017/11/9 (木)	釜石・東北の「おもてなし」とインバウンドについて考えよう アイデアソン！	NPO法人 かまいしリンク
19	2017/11/15(水)	東北におけるインアウトバウンド2.0 の創出	一般社団法人 東北インア ウトバウンド連合
20	2017/11/22(水)	伝統工芸の継承課題を3D・VR・AI で解決する オープンプログラム	大堀相馬焼窯元 松永窯
No.21	2017/12/13(水)	子ども服のシェアと子育て世帯の交流について考える アイデアソン！	NPO法人 ピースジャム
No.22	2017/12/25(月)	家族でプログラミングしてみよう！ 東北発のほやアートを つくってみよう！～次世代へ繋ぐ東北との共創のバトン	—

No.1 後続ページにPick Up写真があります。

「共創力で進む東北プロジェクト」 週次イベント紹介

No.	日付	テーマ	主なテーマ提供団体
No.23	2018/1/25(木)	福島から新しい復興の花を広げたい！ 福島県川俣町が挑戦するアンスリウム栽培の未来を考える アイデアソン＆フラワーアレンジメント	ポリエステル媒地活用 推進組合
No.24	2018/2/14(水)	福島の伝統ある温泉から復興のまちおこしを！ 福島県小野町で90年の歴史をもつ温泉旅館を交流人口拡大の 拠点にしたいアイデアソン	有限会社 磐山荘濱太屋
No.25	2018/2/22(木)	日本酒を中心に伝統工芸品などをライフスタイルに 浸透させることについて考えるアイデアソン	公益財団法人 福島県観光物産交流協会

No.1



5/23：共創力で進む東北プロジェクト
プレキックオフ&ミートアップ

No.3



東北全域

6/30：**東北IT県人会**
～東北のオープンイノベーションは
ITで切り拓けるか？～

No.5



宮城県

7/27：「新しい東北」× 仕事旅行
with 宮城県山元町

No.7



8/24：**復興ダイアログ**
「企業とNPOと市民で未来を創る対話会」

No.8



福島県

8/29：**福島県郡山市発**
「鯉に恋する郡山」プロジェクト2017

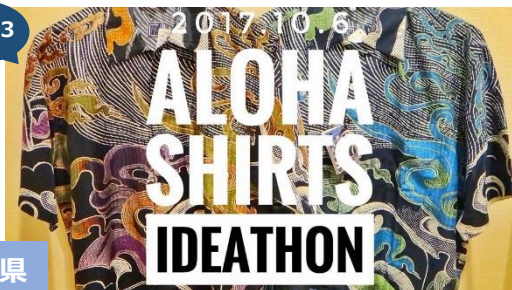
No.10



9/13：LTT（ライトニング**東北**トーク）

「共創力で進む東北プロジェクト」 週次イベント紹介

No.13



宮城県

10/6 : アロハシャツアイデアソン

No.17



福島県

10/27 : 「新しい東北」
地域づくりハンズオン国見町

No.18



岩手県

11/9 : 釜石・東北の「おもてなし」と
インバウンドについて
考えようアイデアソン！

No.21



宮城県

12/13 : 子ども服のシェアと子育て世帯の
交流について考えるアイデアソン！

No.22



宮城県

12/25 : 家族でプログラミングしてみよう！
東北発のほやアートをつくってみよう！
～次世代へ繋ぐ東北との共創のバトン～

No.23



福島県

1/25 : 福島から新しい復興の花を広げたい！
福島県川俣町が挑戦するアンスリウム栽培
の未来を考えるアイデアソン＆
フラワーアレンジメント

No.24



福島県

2/14 : 福島の伝統ある温泉から復興の
まちおこしを！ 福島県小野町で90年の
歴史をもつ温泉旅館を
交流人口拡大の拠点にしたいアイデアソン

No.25



福島県

2/22 : 日本酒を中心に伝統工芸品などを
ライフスタイルに浸透させることについて
考えるアイデアソン



主催

復興庁

問い合わせ先

「新しい東北」共創力で進む東北プロジェクト運営事務局
(NECソリューションイノベータ内)

〒136-8608 東京都江東区新本場1-18-6

TEL: 03-5569-3300 FAX: 03-5569-3237

MAIL: fw_tohoku2017@nes.jp.nec.com

新しい東北



復興庁

Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

専用WEBサイト

<http://www.newtohoku.org/fwtohoku/>